

2025年 全国豊かな海づくり大会が三重県で開催

植樹祭と双璧を成す「第44回全国豊かな海づくり大会」が来年11月に志摩市と南伊勢町で開催されます。その中の一行事、「採苗（稚魚）の放流」が宿田曾漁港にて、天皇陛下のご臨席を賜り、行われる予定です。<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001148050.pdf> 宿田曾漁港は、当社関係会社のスジアオノリ陸上養殖工場（㈱南伊勢マリンバイオ）の目の前でもあり、本大会の対象ではないものの、この場所での開催は感慨深いものです。

本大会は、44年前に海の恵みの持続的な恩恵への感謝とその祈願を目的に始まったと聞いています。しかし、最近の自然現象の変遷（海流の蛇行、水温の上昇）などで、漁獲高や生産量は激変しています。その中で、海産物の安定的な供給を目指して、陸上養殖に注目が集まっています。サーモン、チョウザメ、フグ、アワビ、バナメイエビ、スジアオノリなど、工業新聞では月に何度も「陸上養殖記事」を目にするようになりました。ただ、海面養殖とは異なる課題（設備投資、原価高騰、閉鎖水槽での病気など）は完全には解決されてい

ません。

海藻類に目を向けると、三重県はアオサや黒海苔の海面養殖で国内有数の出荷高を誇りますが、他県と同様に「水温の上昇による生産期間の短縮、大型魚による食害、栄養成分の減少による生育不足や色落ち」により、生産高は激減しています。この三大要因に対する特効薬は存在しません。海水温の上昇は地球規模の問題であり、日本沿岸で対処しても5年後に結果が出るわけではありません。また、大型魚による食害は単なる「〇〇のせいだ」と決



めつけて対処しても、昔の生息状態に戻るわけではありません。

さらに難しい問題が、河口での栄養成分不足です。昭和40、50年頃には富栄養化による赤潮発生が頻発し、COD/BODの削減や窒素・リンの海への流入を減らす取り組みが行われました。その結果、公共下水施設の普及が進み、川や海はきれいになりましたが、海岸線にはエビや貝がいなくなり、豊かな海ではなくなりました。この50年間の取り組みが間違っていたとは思えませんが、豊かな海を取り戻すのは容易ではありません。陸上養殖が海産物の供給を担えるとはいえ、近郊での漁業や養殖は昭和の方法を続けるのではなく、今に合わせた方法にしていくことが現実的な対応です。それが漁業などでの生活を守ることにつながります。過去の名産物がなくなる中で、新しい名産物を作り上げる必要があるとも感じます。豊かな海づくり大会の祈願も、豊かな海を作り出すために、将来の海岸線での新しい生活基盤や新しい食材の創出への祈願であることを期待したいと思います。



測ってみよう! 探検隊 Vol.86

水道が止まるかも! その時の備えはどうしますか?

災害、地震、台風、大雨などにより、配管の破損や水源の汚染により、水道が止まることもあるかもしれませんよね。対策として考えられる次の2つの方法について調べてみました。

①数日分の水を「使用済み」ペットボトルに貯めておく。

★使用済みのペットボトルに水道水を入れ、1週間後に一般細菌を測ってみました。

	空際なく満水	1割空際あり	水道水基準値
冷蔵庫保管	8 個 /mL	0 個 /mL	100 個 /mL
常温保管	300 個 /mL 以上	300 個 /mL 以上	

遊離残留塩素は1週間でのどの容器もすべて0.05mg/L未満となり、殺菌効果はなくなっていました。冷蔵庫保管では細菌の増殖は抑えられました。常温保管後は煮沸後の飲用をお勧めします。

②防災用グッズ「携帯浄水器」で川の水を浄化する。

★水道水基準の10項目を測ってみました。

項目	河川下流水	浄水器使用後	水道水基準値
一般細菌	300 個 /mL 以上	0 個 /mL	100 個 /mL
大腸菌	陽性	陰性	検出されないこと
塩素イオン	3900	4000	200 mg/mL

浄水器使用することで、一定の浄化効果がみられ、細菌類も除去されていましたが、下流域の河川水は塩素イオン濃度が高かったためその除去効果はみられませんでした。

これらの結果より、非常時はペットボトルに水を貯め、日数が開いた場合は簡易浄水器を通すことで、飲料水確保に繋がることがわかりました。

ココに 技あり! 水災害に備え 止水板 “Flood Guard”

河川の氾濫、大雨による冠水と想定外の水災害のニュースが多くなる時期です。当社では浸水対策を土嚢からアルミ板へ更新、さらに今年は「止水板」へ変更しました。従来、男性社員が総出で行っていた土嚢設置回収に比べ、少人数・短時間での作業が可能です。また、土嚢やアルミ板に比べて止水性能が向上し、保管場所もとりません。防災グッズは日々進化をしています。ちなみにこのFlood Guard



は当社の取扱商品でもあります。ご興味を持たれた企業様は、ご連絡をお願い致します。

社員プチコラム

井上 泰智 (環境事業本部 ラボグループ)

旅行が好きで、社会人になってからこれまでに滋賀・長野・神戸・鎌倉・岐阜などを訪れてきました。特に美しい景色と現地の美味しい料理を楽しむことが旅の醍醐味です。最近では、お盆に長野県の上高地を訪れ、澄んだ空気と壮大な山々に包まれながら、日常の喧騒を忘れてリフレッシュしました。松本城では天守閣に上がったあと、信州そばを食べ、帰りには岐阜の飛騨大鍾乳洞にも立ち寄り、涼しさと幻想的な地下の風景に感動しました。旅行は行く度に新たな発見があり、非日常を味わえる貴重な時間だと思います。



編集後記

今月9月は防災月間です。先日は「南海トラフ地震臨時情報」が発表され驚きました。情報収集や防災への備え等、今一度点検も含め意識を高めていただければと、今月は防災特集としました。万が一に備えておけば安心ですよね。「備えあれば憂いなし」です。(みっちー)

